

JR双葉駅西側・新市街地ゾーンと JR双葉駅東側・まちなか再生ゾーンの 整備方針と整備イメージを考える

(第1回 町の復興部会)

平成28年7月



福島県双葉町



●町の復興部会の目的

- ①新市街地ゾーン・まちなか再生ゾーンの今後(5～10年後)の姿について考えます。
- ②町の復興を他地区へどのように広げていくか、みなさんとイメージを共有します。

町の復興部会の進め方

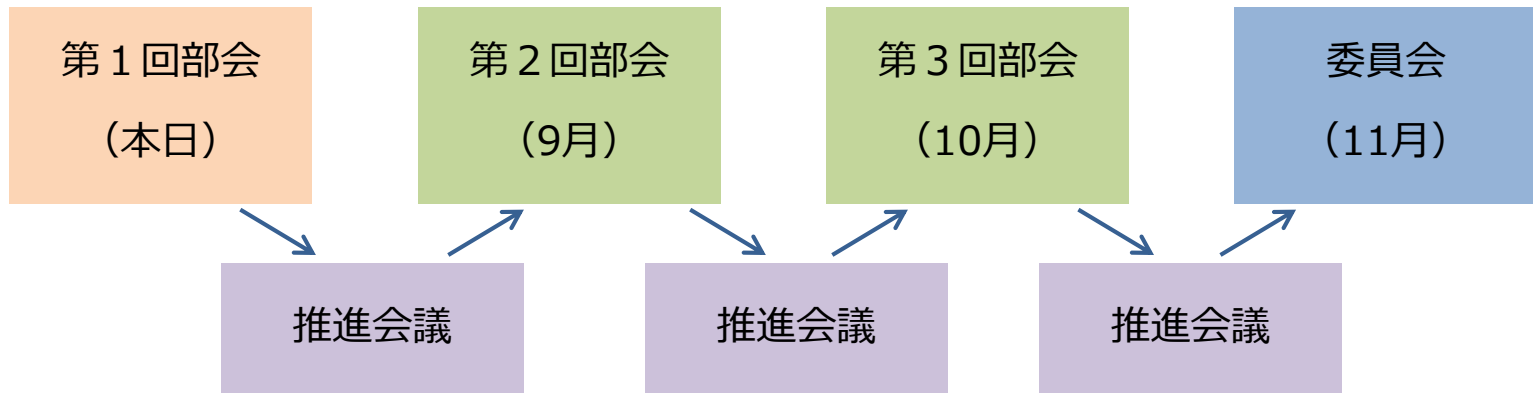
●町の復興部会の進め方

- ①町の復興部会は3回です。
- ②各回でご意見をいただきたいテーマを設定いたします。
- ③具体的にイメージできるよう、町から大まかな案を提示します。

※町の復興部会、人の復興部会の内容については、適宜情報を共有いたします。

●町の復興部会の成果

- ①みなさんからいただいたご意見は、庁内の復興まちづくり計画推進会議でさらに検討を深めて計画に反映いたします。
- ②3回の部会が終了後、概要を委員会(11月予定)で報告します。



第1回部会 (本日)

新市街地ゾーン・まちなか再生ゾーンのイメージについて

内容:

- ①新市街地ゾーン・まちなか再生ゾーン・中野地区復興産業拠点のつながりについて
- ②新市街地ゾーンに必要な機能、まちなか再生ゾーンの再整備イメージについて。

第2回部会 (9月)

新市街地ゾーン・まちなか再生ゾーンの整備イメージやスケジュールについて

内容:

- ①新市街地ゾーン・まちなか再生ゾーンの整備スケジュールを確認。
- ②1回目のWS成果を受けて新市街地ゾーン・まちなか再生ゾーンの整備イメージを確認

第3回部会 (10月)

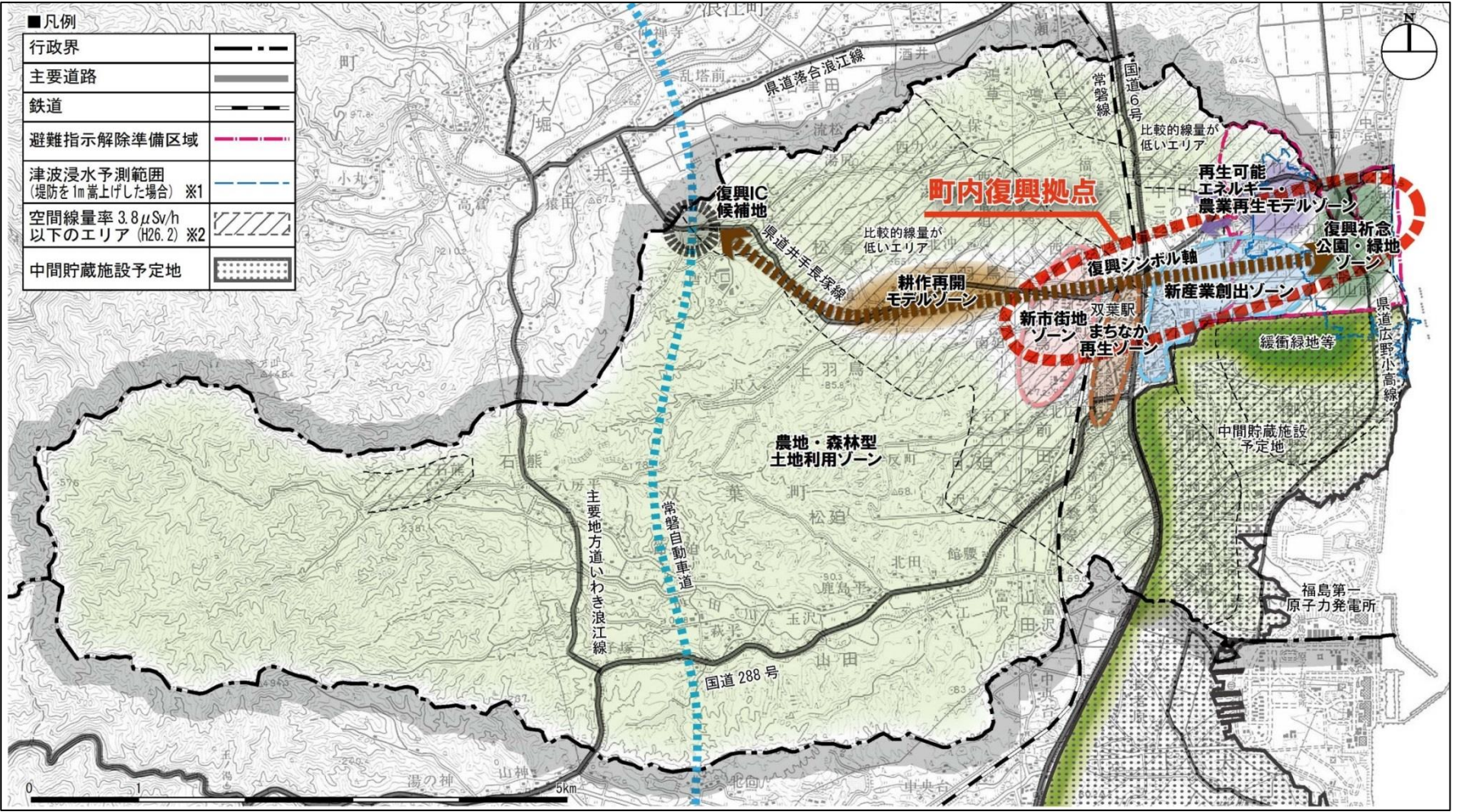
新市街地ゾーン・まちなか再生ゾーンの姿、他地区への展開について

内容:

- ①2回目のWS成果を受けて、新市街地ゾーン・まちなか再生ゾーンの機能配置(ゾーニング)、整備スケジュール、事業スケジュールを確認
- ②新市街地ゾーン・まちなか再生ゾーンの基本的な考え方
- ③他地域への展開、今後のスケジュールの確認

双葉町の復興の進め方

- 復興まちづくり長期ビジョン(平成27年3月)にて、復興の進め方を示しました。
 - ①町内復興拠点の整備
 - ②町内における段階的な取り組みの推進
- 常磐自動車道(復興IC:平成31年度供用開始)、JR常磐線(平成31年度全線開通)により、町外からのつながりが強化されます。

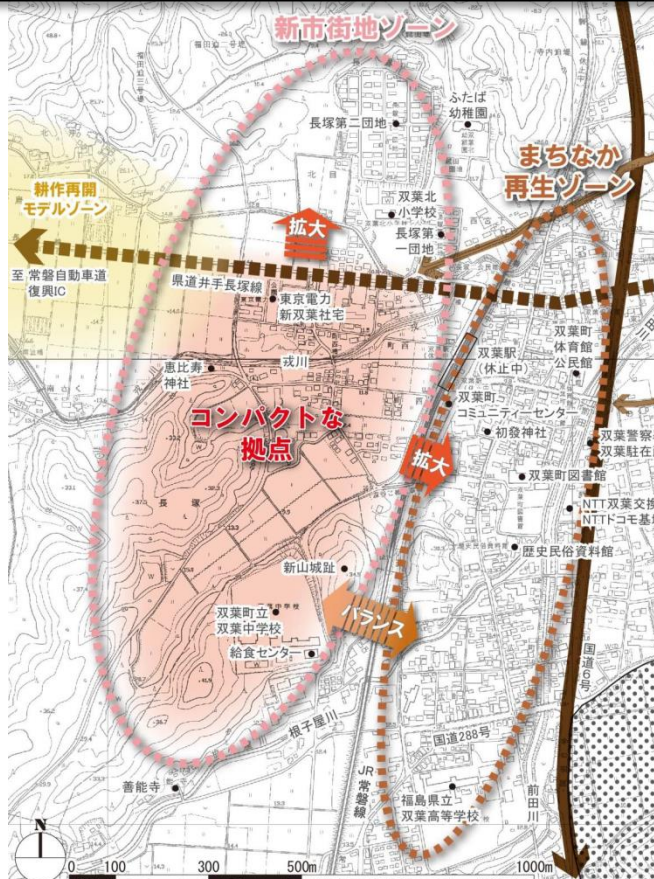
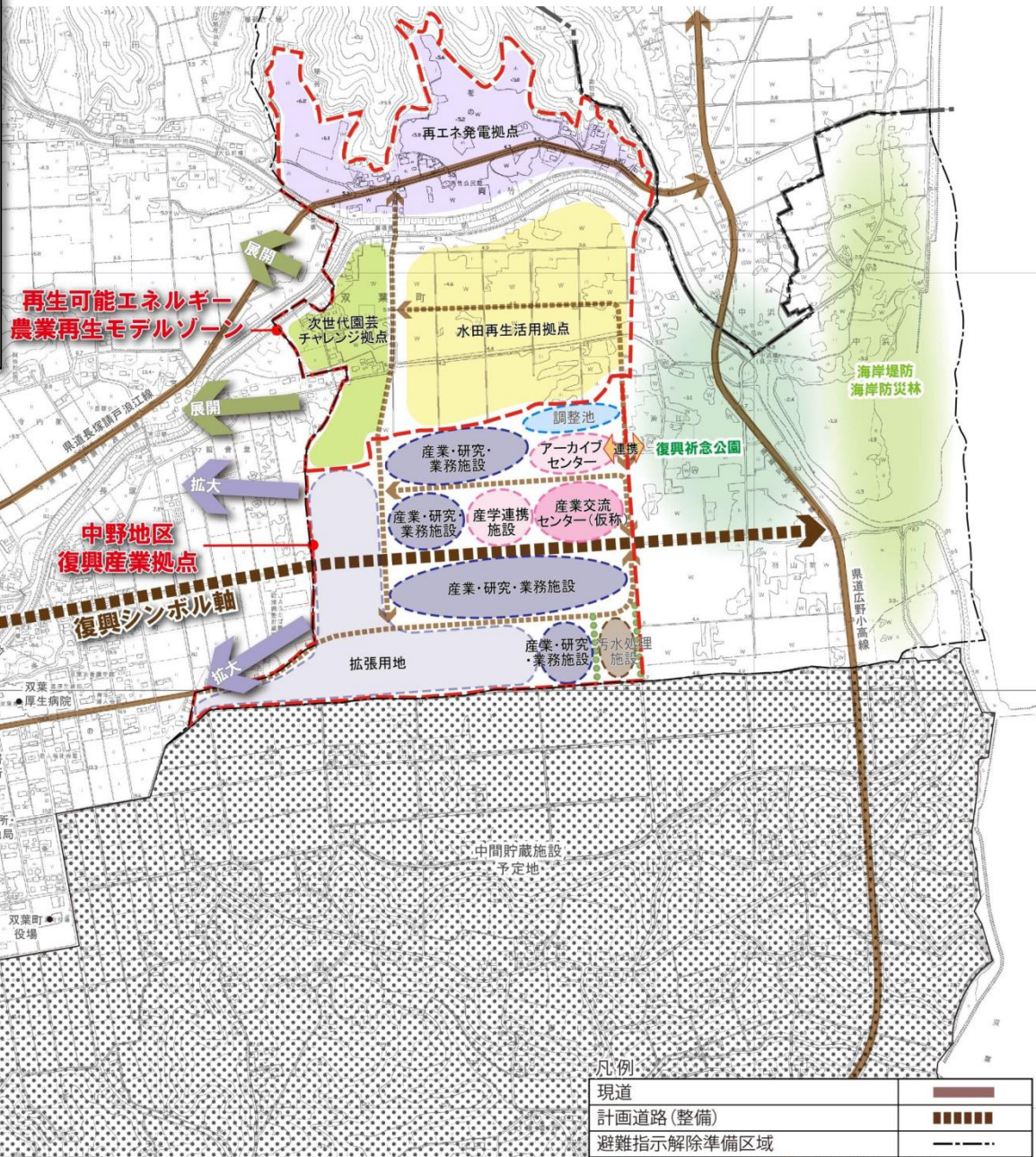


双葉町内復興拠点基本構想(抄)

駅西・新市街地ゾーン、駅東・まちなか再生ゾーン

(取組の考え方)
 町の復興を推進するには、復興産業拠点との連携を考えつつ、住宅地の確保を急ぐことが必要です。そのため、放射線量が低減するとともに、まとまった町有地がある新市街地ゾーンに、住宅地の早期整備を目指します。また、医療・福祉施設、商業施設、公共施設等の生活関連施設についても、着実に整備を進めます。

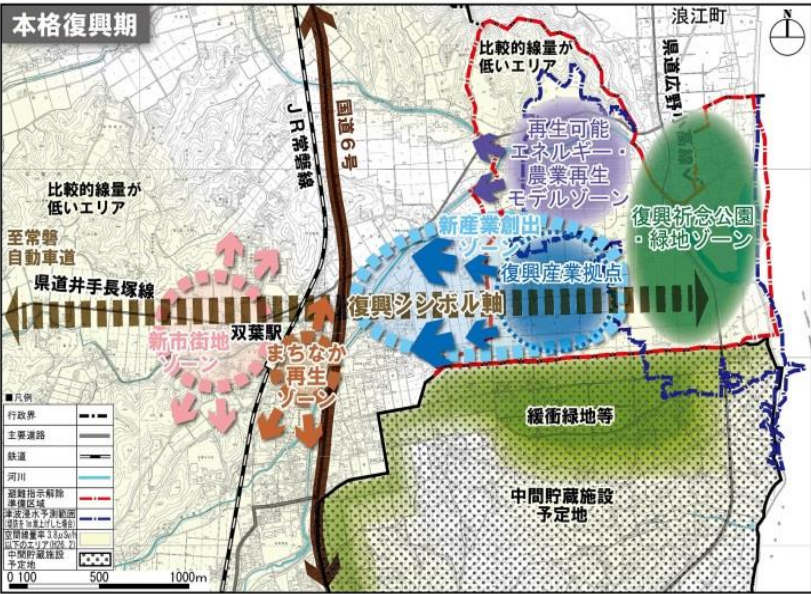
- (取組の概要)
- 駅西・新市街地ゾーン**
- ・平成28年度に除染を実施
 - ・住宅地の整備を目指し、あわせて生活関連施設についても着実に整備
 - ・中野地区復興産業拠点と連携し復興の核を形成
- 駅東・まちなか再生ゾーン**
- ・古き良き双葉町の街並みの再生（歴史のある建造物の保存・再建、外観を工夫した公営住宅の整備等）
 - ・既存中心市街地の再整備（被害を受けた建物の解体撤去、街区再整備等）



現道	
計画道路(整備)	
避難指示解除準備区域	

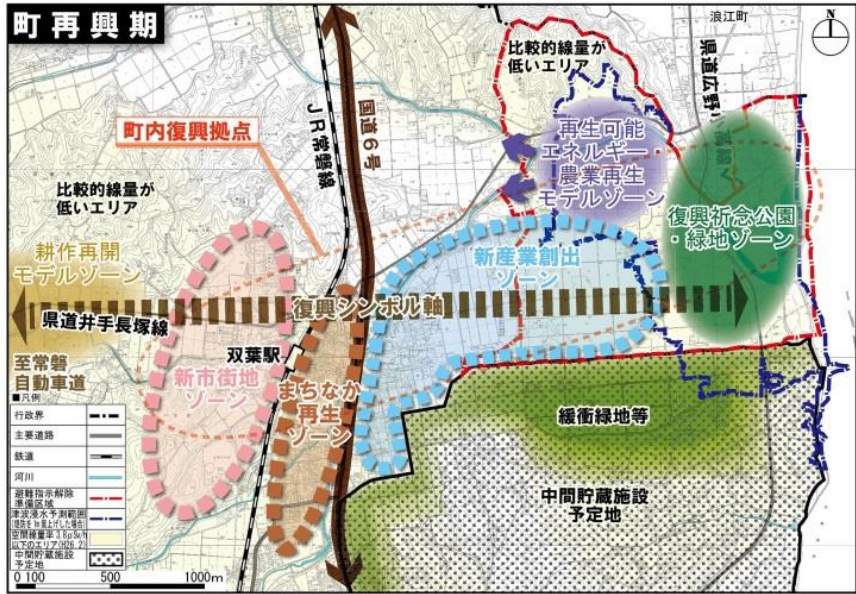
段階的な整備イメージ

●復興まちづくり長期ビジョンでは、「②町内における段階的な取り組みの推進」として、復興産業拠点を整備後、段階的な整備イメージを示しています。



本格復興期

「復興産業拠点」を整備し、順次発展させ「新たな産業・雇用の場」を確保

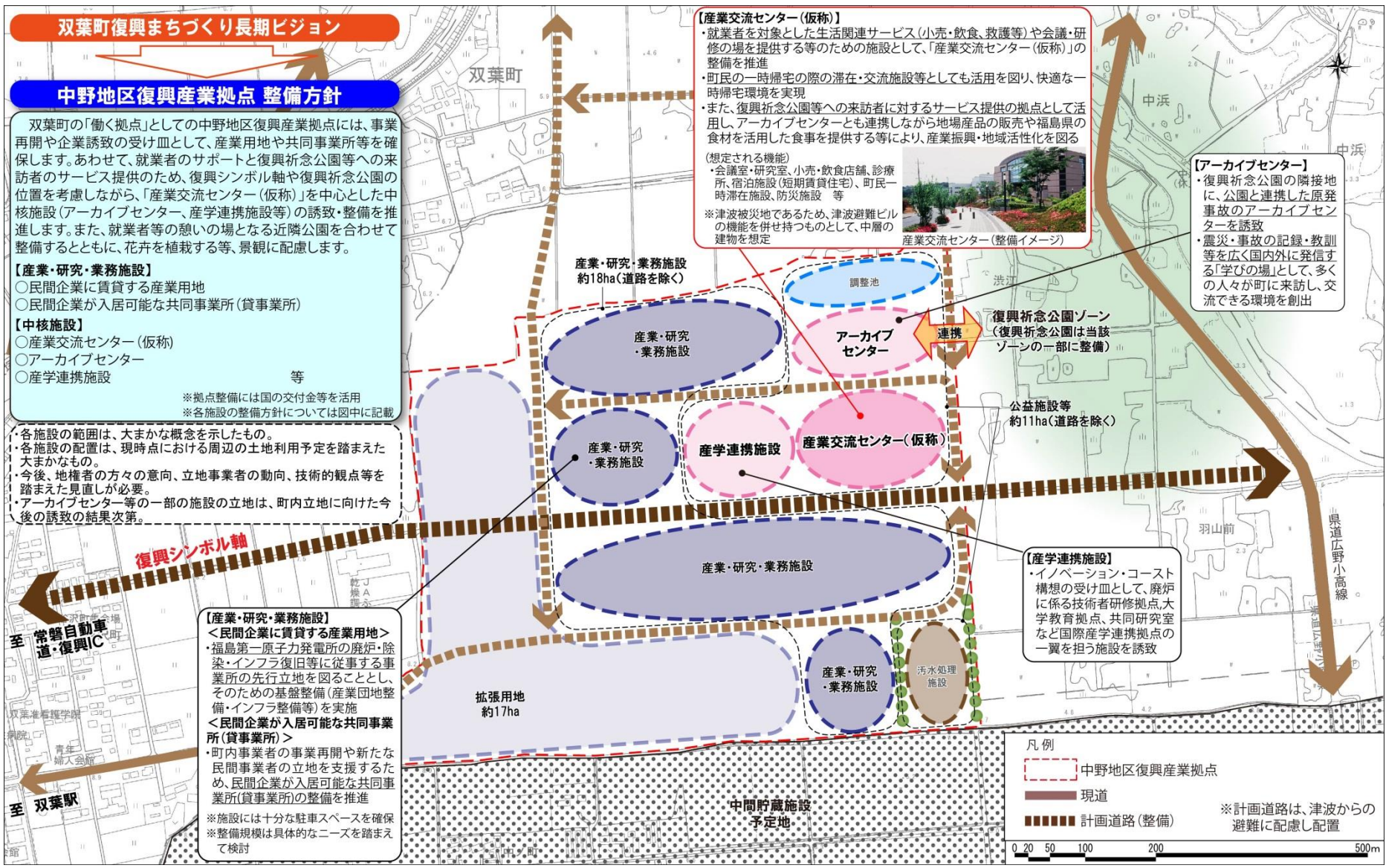


町再興期

避難指示解除後、「新たな生活の場」で安心して快適な生活を送れる環境整備

中野地区復興産業拠点の整備イメージ

●平成27年度の双葉町復興町民委員会の「復興産業等拠点部会」にて中野地区復興産業拠点の整備イメージが議論され、町へ提案がありました。



双葉町復興まちづくり長期ビジョン

中野地区復興産業拠点 整備方針

双葉町の「働く拠点」としての中野地区復興産業拠点には、事業再開や企業誘致の受け皿として、産業用地や共同事業所等を確保します。あわせて、就業者のサポートと復興祈念公園等への来訪者のサービス提供のため、復興シンボル軸や復興祈念公園の位置を考慮しながら、「産業交流センター(仮称)」を中心とした中核施設(アーカイブセンター、産学連携施設等)の誘致・整備を推進します。また、就業者等の憩いの場となる近隣公園を合わせて整備するとともに、花卉を植栽する等、景観に配慮します。

- 【産業・研究・業務施設】**
- 民間企業に賃貸する産業用地
 - 民間企業が入居可能な共同事業所(貸事業所)
- 【中核施設】**
- 産業交流センター(仮称)
 - アーカイブセンター
 - 産学連携施設
- 等
- ※拠点整備には国の交付金等を活用
※各施設の整備方針については図中に記載

各施設の範囲は、大まかな概念を示したもの。
各施設の配置は、現時点における周辺の土地利用予定を踏まえた大まかなもの。
今後、地権者の方々の意向、立地事業者の動向、技術的観点等を踏まえた見直しが必要。
アーカイブセンター等の一部の施設の立地は、町内立地に向けた今後の誘致の結果次第。

- 【産業・研究・業務施設】**
- <民間企業に賃貸する産業用地>
- ・福島第一原子力発電所の廃炉・除染・インフラ復旧等に従事する事業所の先行立地を図ることとし、そのための基盤整備(産業団地整備・インフラ整備等)を実施
- <民間企業が入居可能な共同事業所(貸事業所)>
- ・町内事業者の事業再開や新たな民間事業者の立地を支援するため、民間企業が入居可能な共同事業所(貸事業所)の整備を推進
- ※施設には十分な駐車スペースを確保
※整備規模は具体的なニーズを踏まえて検討

【産業交流センター(仮称)】

- ・就業者を対象とした生活関連サービス(小売・飲食・救護等)や会議・研修の場を提供する等のための施設として、「産業交流センター(仮称)」の整備を推進
- ・町民の一時帰宅の際の滞在・交流施設等としても活用を図り、快適な一時帰宅環境を実現
- ・また、復興祈念公園等への来訪者に対するサービス提供の拠点として活用し、アーカイブセンターとも連携しながら地場産品の販売や福島県の食材を活用した食事を提供する等により、産業振興・地域活性化を図る

(想定される機能)

- ・会議室・研究室、小売・飲食店舗、診療所、宿泊施設(短期賃貸住宅)、町民一時滞在施設、防災施設 等

※津波被災地であるため、津波避難ビルの機能を併せ持つものとして、中層の建物を想定

産業交流センター(整備イメージ)

【アーカイブセンター】

- ・復興祈念公園の隣接地に、公園と連携した原発事故のアーカイブセンターを誘致
- ・震災・事故の記録・教訓等を広く国内外に発信する「学びの場」として、多くの人々が町に来訪し、交流できる環境を創出

【産学連携施設】

- ・イノベーション・コースト構想の受け皿として、廃炉に係る技術者研修拠点、大学教育拠点、共同研究室など国際産学連携拠点の一翼を担う施設を誘致

凡例

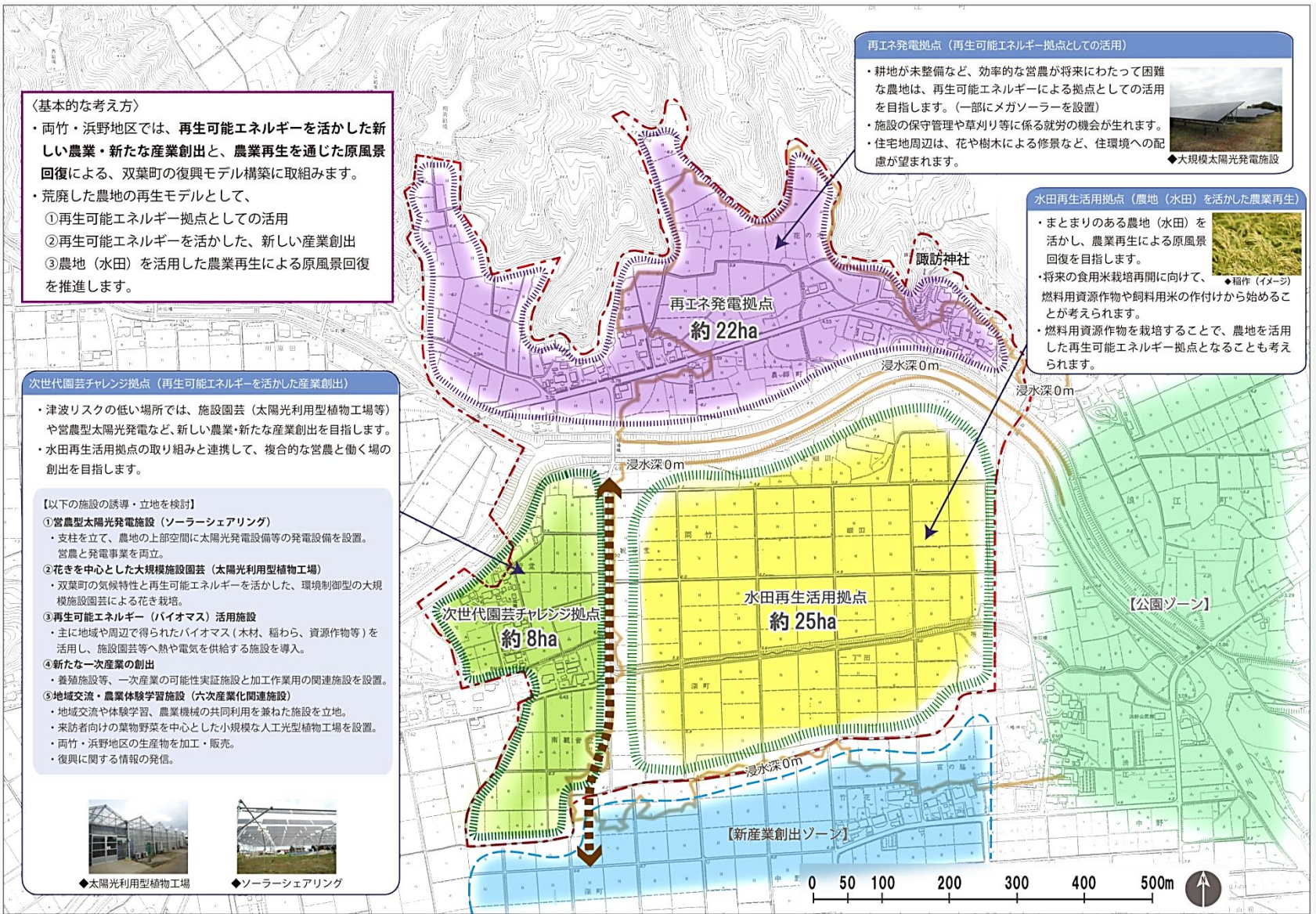
- 中野地区復興産業拠点
- 現道
- 計画道路(整備)

※計画道路は、津波からの避難に配慮し配置

0 20 50 100 200 500m

再生可能エネルギー・農業再生モデルゾーンの整備イメージ

●平成27年度の双葉町復興町民委員会の「新産業創出分科会(復興産業等拠点部会)」にて再生可能エネルギー・農業再生モデルゾーンの整備イメージが議論され、町へ提案がありました。



〈基本的な考え方〉

- ・両竹・浜野地区では、再生可能エネルギーを活かした新しい農業・新たな産業創出と、農業再生を通じた原風景回復による、双葉町の復興モデル構築に取組みます。
- ・荒廃した農地の再生モデルとして、
 - ①再生可能エネルギー拠点としての活用
 - ②再生可能エネルギーを活かした、新しい産業創出
 - ③農地(水田)を活用した農業再生による原風景回復を推進します。

再生可能エネルギー拠点 (再生可能エネルギー拠点としての活用)

- ・耕地が未整備など、効率的な営農が将来にわたって困難な農地は、再生可能エネルギーによる拠点としての活用を目指します。(一部にメガソーラーを設置)
- ・施設の保守管理や草刈り等に係る就労の機会が生まれます。
- ・住宅地周辺は、花や樹木による景観など、住環境への配慮が望めます。

◆大規模太陽光発電施設

水田再生生活拠点 (農地(水田)を活かした農業再生)

- ・まとまりのある農地(水田)を活かし、農業再生による原風景回復を目指します。
- ・将来の食用米栽培再開に向けて、燃料用資源作物や飼料用米の作付けから始めることが考えられます。
- ・燃料用資源作物を栽培することで、農地を活用した再生可能エネルギー拠点となることも考えられます。

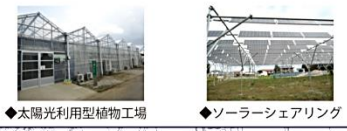
◆稲作(イメージ)

次世代園芸チャレンジ拠点 (再生可能エネルギーを活かした産業創出)

- ・津波リスクの低い場所では、施設園芸(太陽光利用型植物工場等)や営農型太陽光発電など、新しい農業・新たな産業創出を目指します。
- ・水田再生生活拠点の取り組みと連携して、複合的な営農と働く場の創出を目指します。

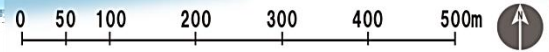
【以下の施設の誘導・立地を検討】

- ①営農型太陽光発電施設(ソーラーシェアリング)
 - ・支柱を立て、農地の上部空間に太陽光発電設備等の発電設備を設置。営農と発電事業を両立。
- ②花きを中心とした大規模施設園芸(太陽光利用型植物工場)
 - ・双葉町の気候特性と再生可能エネルギーを活かした、環境制御型の大規模施設園芸による花き栽培。
- ③再生可能エネルギー(バイオマス)活用施設
 - ・主に地域や周辺で得られたバイオマス(木材、稲わら、資源作物等)を活用し、施設園芸等へ熱や電気を供給する施設を導入。
- ④新たな一次産業の創出
 - ・養殖施設等、一次産業の可能性実証施設と加工作業用の関連施設を設置。
- ⑤地域交流・農業体験学習施設(六次産業化関連施設)
 - ・地域交流や体験学習、農業機械の共同利用を兼ねた施設を立地。
 - ・来訪者向けの菓物野菜を中心とした小規模な人工光型植物工場を設置。
 - ・両竹・浜野地区の生産物を加工・販売。
 - ・復興に関する情報の発信。



【新産業創出ゾーン】

【公園ゾーン】

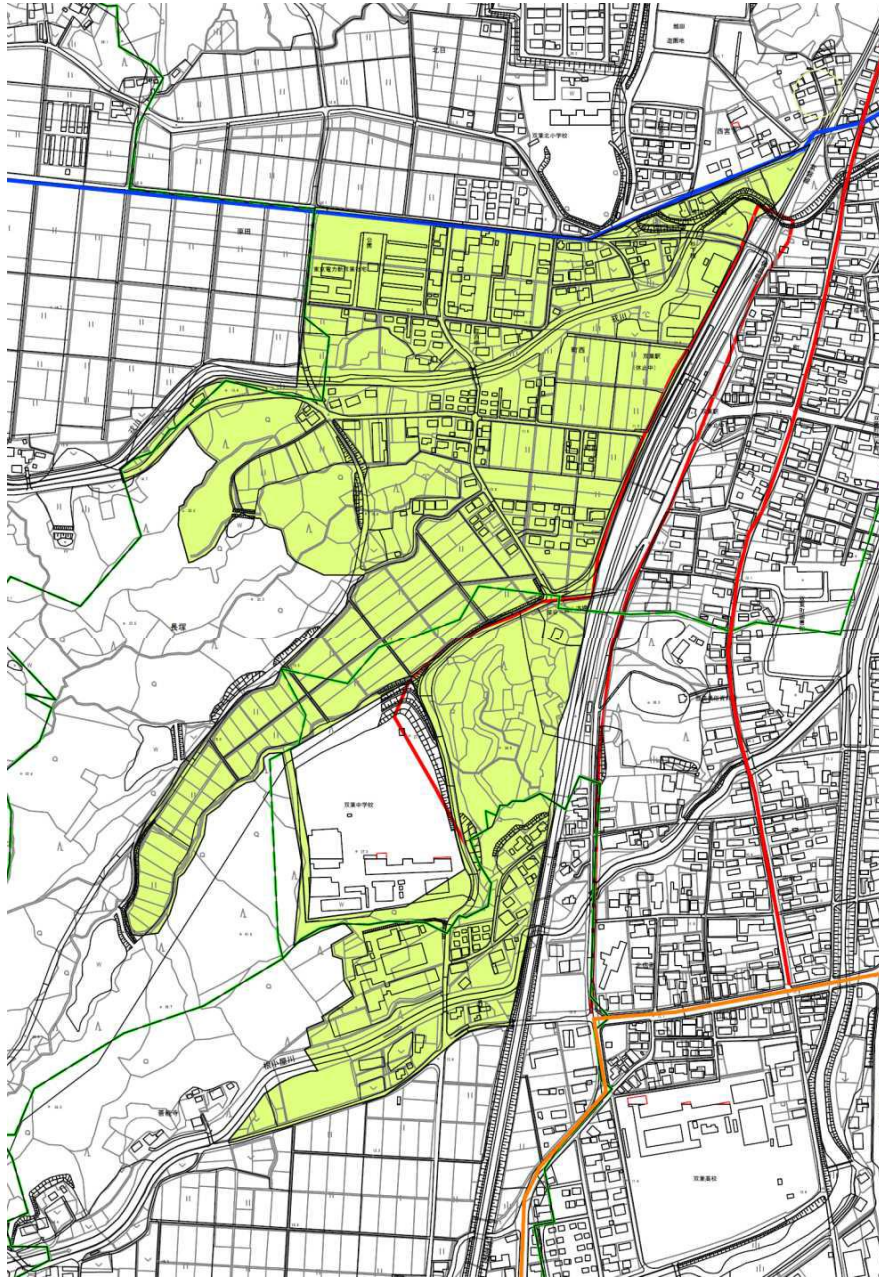


町の本格的な復興を早期に推進するためには、雇用の場となる復興産業拠点との連携を考えながら、住宅用地の確保を早期に図っていくことが必要である。それには、まとまった町有地があることにより事業実施が相対的に容易であり、住宅用地として比較的早く整備を進めることが可能な双葉駅の西側の駅近辺から着実に整備を進めていくことが現実的である。

町の復興を進める上での第一歩は「除染」であり、除染が終了しない状況ではできることは限られてしまう。このため、まずは線量が相対的に低い駅西側の駅近辺から除染を開始し、駅の西側に住宅地の整備を進め、併せて医療・福祉施設、商業施設、公共施設等が整備できる環境を整え、復興の基礎作りを早期に行う必要がある。

しかしながら、JR双葉駅西・新市街地ゾーン単体で、復興の姿を考えることはできない。双葉町の中心であった「まちなか再生ゾーン」をはじめ、各種ゾーンとの連携を考えながら、バランスよく町の復興を図っていく必要がある。

JR双葉駅西側地区の拠点除染実施範囲について



- ・左図の約40haについて、平成28年度における拠点除染を実施
- ・双葉中学校はすでに除染済み

新市街地ゾーン・まちなか再生ゾーンと 中野地区復興産業拠点のつながりについて

「双葉町復興町民委員会提言書(H28.1)」の記載

- ・双葉駅の西側の駅近辺から着実に整備を進めていくことが現実的
- ・駅の西側に住宅地の整備を進め、併せて医療・福祉施設、商業施設、公共施設等が整備できる環境を整え、復興の基礎作りを早期に行う
- ・各種ゾーンとの連携を考えながら、バランスよく町の復興を図っていく

上記の点について、まちの復興をより具体化していくために、皆様のご意見をお聞かせください。

テーマ2: JR双葉駅西側・新市街地ゾーンの整備方針と整備イメージを考える

「双葉町復興町民委員会提言書(H28.1)」を踏まえて町が策定した「双葉町内復興拠点基本構想(H28.3)」では、JR双葉駅西側の「新市街地ゾーン」について、「住宅地の早期整備を目指します。また、医療・福祉施設、商業施設、公共施設等の生活関連施設についても、着実に整備を進めます。」とされております。

そこで、町では、大まかに以下のような方針で、次ページのようなイメージの構想を具体化してはどうかと検討しておりますが、皆様のご意見をお聞かせください。

【新市街地ゾーンの整備方針(素案)】

＜整備の進め方関係＞

- ①拠点除染を実施する区域のうち、JR双葉駅近辺から開発に着手
- ②復興・創生期間(平成28年度～平成32年度)における宅地造成とインフラ復旧を目指す
- ③具体的な整備規模は、今後のニーズ調査の結果を踏まえて検討

＜施設の整備方針関係＞

- ④駅前には、生活関連サービスを提供する官民複合施設等を整備
- ⑤官民複合施設を囲む形で、復興公営住宅(集合・戸建)を整備
- ⑥東電社宅(新双葉社宅・原田寮)の復旧・再開を東電に要請
- ⑦⑥を前提に、戒川の北側は就労者向け住宅エリア、南側は帰還する町民向け住宅エリアに区分け

官民複合施設

復興公営住宅
(集合)

復興公営住宅
(戸建)

テーマ3：JR双葉駅東側・まちなか再生ゾーンの整備イメージを考える

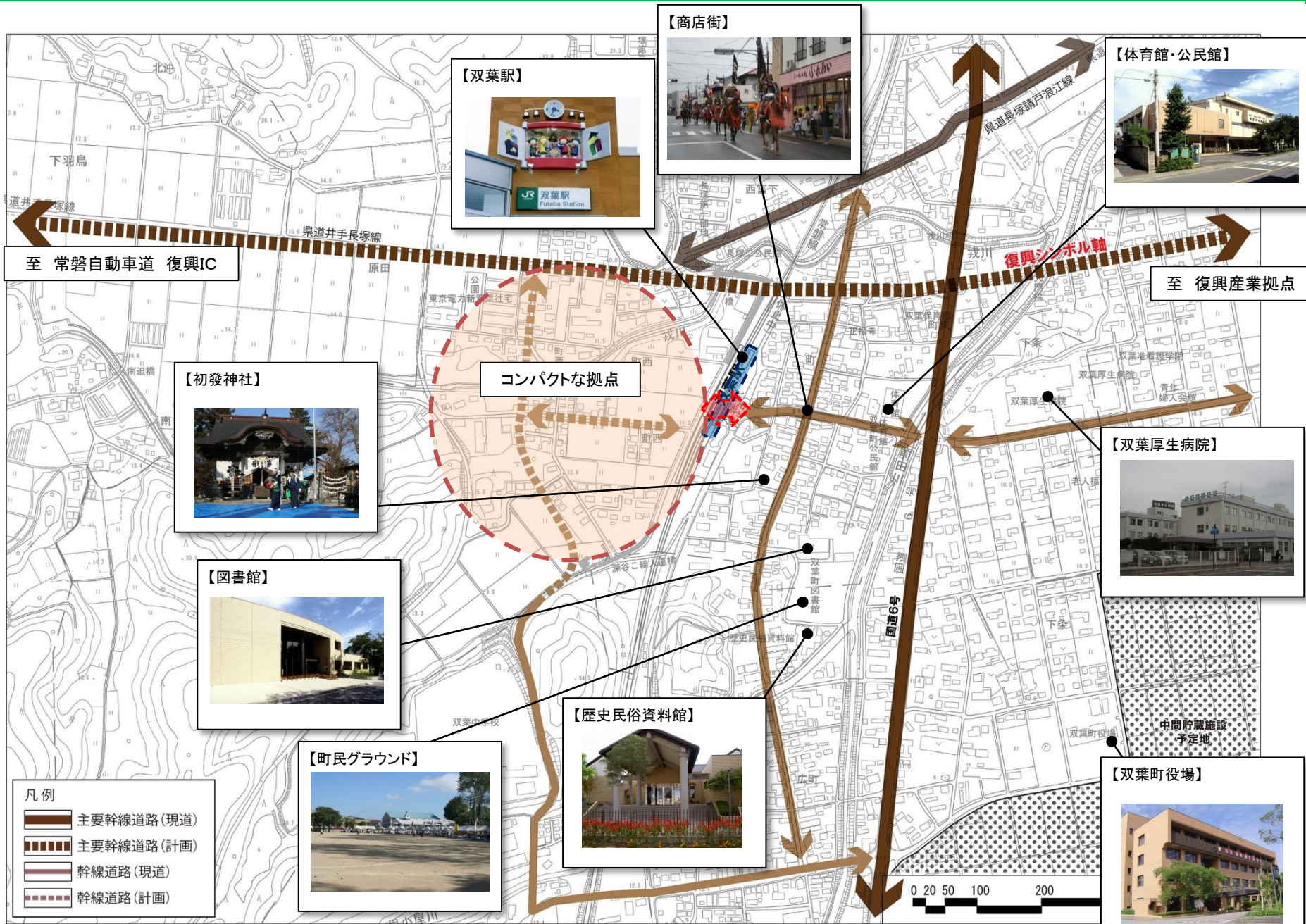
「双葉町復興町民委員会提言書(H28.1)」を踏まえて町が策定した「双葉町内復興拠点基本構想(H28.3)」では、JR双葉駅東側の「まちなか再生ゾーン」について、

- ・古き良き双葉町の街並みの再生(歴史のある建造物の保存・再建、外観を工夫した公営住宅の整備等)
- ・既存中心市街地の再整備(被害を受けた建物の解体撤去、街区再整備等)を行うこととされております。

皆様にとっての「古き良き双葉町の街並みの再生」とは具体的に何か、次ページの地図も参考にしながら、自由なご意見をお聞かせください。



(参考図) JR双葉駅周辺地図



至 常磐自動車道 復興IC

コンパクトな拠点

至 復興産業拠点

- 凡例
- 主要幹線道路(現道)
 - 主要幹線道路(計画)
 - 幹線道路(現道)
 - 幹線道路(計画)

0 20 50 100 200